

プレッジ THE PLEDGE

JACK NICHOLSON × SEAN PENN



カンヌ国際映画祭 コンペティション部門正式出品作
ナショナル・ボード・オブ・レビュー 2001年度年間ベスト10

ウディ・アレン

『ギター弾きの恋』でベンを起用、アカデミー賞ノミネートに導く

彼はプロで、天才で、すごく頭がよくて、面白くて、素敵な男だ。
彼とならいつだって仕事をするよ。

“監督”そして“俳優”

ショーン・ペンと
新作“プレッジ”を賞賛する
世界中の声たち

マドンナ

['85~'89年ペンと結婚生活を送る]

今まででいちばん真剣に愛した男性はショーン・ペンよ。

安西水丸さん

ショーン・ペンの才能は、俳優としても監督としても光っている。
光はただきらきらでもなく、よく言われるいぶし銀でもない。
それは感性の危うい光とっていい。



ベニチオ・デル・トロ

[知合ってから10年、一見本人とはわからない役で怪演]

『プレッジ』は観終わったあとに、観客の心に何かを残すことができる映画だ。
監督ショーン・ペンの才能に感服した。

オダギリジョーさん

役者と同時に映像も撮りたいと思っている僕にとって、
ショーン・ペンの才能は嘔吐しそうな程、羨ましい。

ジャック・ニコルソン

[ベンが10代の頃からの親友、前作に続き2度目の主演]

ショーンはとてもユニークで、いつでも一緒に仕事をしたいと思う。
彼は詩的で素晴らしい目を持っている。彼の映画は他のものとは違う。
必ず役者が挑戦できる余裕も与えてくれる。でもとにかく一緒にいるだけで楽しいんだ。

石橋凌さん

[ベン監督の前作『クロッシング・ガード』に出演]

ショーン・ペン監督は今回も人間の、そして映画の本質にせまる。
いつまでも人の心に残像として記憶させる。



ジェニファー・ロペス

['リターン』で競演]

ことキスに関して言えば、
いままで共演したスターたちはみんな上手だったわ。
ただ一番をあげるとすれば、やっぱりショーン・ペンね。



中原昌也さん

[第14回三島由紀夫賞受賞]

まったく知人ではないのに断言してしまうのはどうかと思うが、
ショーン・ペンくらい魅力的な人物はいない。(FIGAROjapon 6/5号より)

江口洋介さん

事件の背後に迫る男の危険な狂気を、
静かな自然の映像に深く映し出している演出に引き込まれた。



オリヴァー・ストーン

['リターン』でベンを起用し、その後絶交]

ショーンは、究極のアウトローだ。

ジョディ・フォスター

俳優としても監督としても
とても気になるわ。



ケヴィン・スペイシー

['キャストリング・ディレクター』で競演]

彼は僕が今まで出会った人々の中で、
最も寛大で、天才で、同時におもしろく、
すばらしい人の1人だ。

井筒和幸さん

悲しいほどに孤高感が漂う優しさだ。
監督ショーン・ペンが、怪物ジャック・ニコルソンに
真正面から挑んだ勇気に乾杯したい。自腹で1800円!
ちよいと高級なビールをグイッとやってみた、
そんな渋〜い優越感に浸れる1本やね。(アサヒ芸能エンタメ! 8月号)



about SEAN PENN

ショーン・ペン

東京で無数に群れる鳥が、アメリカン・インディアンの言い伝えでは、物質の形を変え、物を生き物に変える力を持つ精霊として崇め、恐れられてきた。鳥の鳴き声は悪いことが起きる前ぶれだった。彼らにとって鳥は聖なる力を持つ生き物だった。彼らは野生の動物たちの力を盗むことで、その超自然的なパワーを自分のものにできると信じていた。処女監督作『インディアン・ランナー』(91)では狼の力を盗んで狩りをするインディアンを引き合いに出し、今作ではベニチオ・デル・トロ演じる現代の、弱者たるインディアンが登場する。そして鳥のモチーフが、何か悪いことが起きる前兆のように、不気味な雰囲気を出すために導入されている。それは全て、彼の“^{フレンジ}境界”への憧れからくるものなのかもしれない。

1960年、映画監督の父親と、舞台女優の母親の下、ロサンジェルスに生まれたショーン・ペンは、近所にも多い芸能一家の二世として、後に『タプス』(81)で映画デビューを飾るまで、奔放な青春時代をサーフィンに没頭して過ごした。そしてマドンナとの結婚を機に(注目されていたのは彼女だったと彼は後に語る)、不眠なマスコミに殴りかかり、ペンや写真の力で報復されては怒りを露わにしてきた彼は、自分を余計に境界へと追い込むことで繊細な心が傷つくのを守ってきた。だが静かに拳を握りしめ、誰もか否定しようのない、俳優としての実力で仕返しするだけでは、彼は映画を愛しすぎていた。いや、映画を冒されることこそが、彼には耐えられなかったのかもしれない。自ずと映画界の破天荒な巨人たちと交流を深めるようになる。ワイルドで良質な映画が作られていた時代に活躍してきた先輩たち。ペンは二度も主演してもらったジャック・ニコルソンを始め、デニス・ホッパー、マーロン・ブランド、ウォーレン・ベイティなど、誰にも束縛されない、自由な生き様を貫いてきた先輩たちを慕い、相談することで再び力を回復し、逆に先輩たちは、昔の自分を見ているような気がするからなのか、そんなペンをかわいがった。それはインディアンのシャーマンにも喻えられないだろうか。ペンは先輩たちの言葉を聞き、その呪文から何かを学び取り、再び戦場へと飛び出す。

ペンも今では妻と子供二人(娘ディラン、息子ホッパー・ジャック)を家族に迎え、マリブの家が火災で焼けたのを機にサンフランシスコのすぐ北にあるマリンへ移り住んだ。その間も、彼は家を出て好き勝手にやり、複数の女性とも浮き名を流したが、最終的には家に帰り、今は幸せに暮らしている。幸せ…。ペンの望む幸せとはなんだろう。それが広い家に緑の芝生、午後6時の夕食とも思えないが、『インディアン・ランナー』の戦争帰りの破滅的な弟をペンに重ね合わせるのもまた間違いだ。彼は意外にも、弟の道を修正しようとする兄の性格なのだと言っていたことがある。だが彼の魅力はそんな自己矛盾にこそある。ハリウッドを代表する役者でありながらメインストリームを否定し、家族を抱えながらアメリカに革命が起きないことを憂う男。

とにかく、彼はインディアンが自然に見出したように、境界の森に棲む先輩たちの超人的なパワーを盗みながら、これからも“男気”のある映画を撮っていくことだけは間違いないだろう。

SEAN PENN Director-filmography

- 1.インディアン・ランナー The Indian Runner (1991) 監督・脚本
- 2.クロッシング・ガード The Crossing Guard (1995) 監督・脚本・製作
- 3.プレッジ The Pledge (2001) 監督・製作

『プレッジ』ノベライズ
戦後ドイツ語文学の巨星が
挑んだミステリの巨峰

「約束」
フリードリヒ・デュレンマツ
前川道介[訳]



全国書店にて絶賛発売中!

監督・製作:ショーン・ペン

出演:ジャック・ニコルソン [シャイニング] [恋愛小説家]

ベニチオ・デル・トロ [トラフィック]

ロビン・ライト・ペン [フォレスト・ガンブ 一期一会]

サム・シェパード [ブラックホーク・ダウン]

ヴァネッサ・レッドグレイヴ [17歳のカルテ]

ミッキー・ローク [ナインハーフ]

ヘレン・ミレン [ゴスフォード・パーク]

配給:ギャガ・コミュニケーションズGシネマグループ 宣伝:ギャガGシネマXmaison
協力:アーティストフィルム
2001年/アメリカ/123分/ドルビーデジタル・SRD/シネマスコープ

GAGA www.gaga.ne.jp

プレッジ

ジャック・ニコルソン主演×ショーン・ペン監督作品

カンヌ国際映画祭 コンペティション部門正式出品作 ナショナル・ボード・オブ・レビュー 2001年度年間ベスト10

FRANCHISE PICTURES PRESENTS A CLYDE IS HUNGRY FILMS PRODUCTION JACK NICHOLSON "THE PLEDGE" BENICIO DEL TORO AARON ECKHART HELEN MIRREN TOM NOONAN ROBIN WRIGHT PENN VANESSA REDGRAVE MICKY ROURKE SAM SHEPARD LOIS SMITH HARRY DEAN STANTON DIRECTED BY DON PHILLIPS MUSIC BY HANS ZIMMER AND KLAUS BADELDT EDITED BY JAY CASSIDY PRODUCTION DESIGNER BILL GROOM CASTING BY DON PHILLIPS EXECUTIVE PRODUCER ANDREW STEVENS BASED ON THE BOOK BY FRIEDRICH DURRENMATT SCREENPLAY BY JERZY KROMOLOWSKI & MARY OLSON-KROMOLOWSKI PRODUCED BY MICHAEL FITZGERALD SEAN PENN ELIE SAMAHA DIRECTED BY SEAN PENN ©2000 PLEDGE PRODUCTIONS, INC. ALL RIGHT RESERVED.

“監督”ショーン・ペン待望の第3作『プレッジ』初夏、全国順次ロードショー!

6/29(土)より、「約束」のロードショー!

特別鑑賞券好評発売中
先着1,000名様に(ショーン・ペン)ポスターをプレゼント!
一般券¥1,500/ペア券(お二人で、劇場窓口のみ) ¥2,800(税込)(当日一般¥1,800の処)

東京	恵比寿ガーデンプレイス内・恵比寿三越となり 恵比寿ガーデンシネマ	03-5420-6161 www.cineplex.co.jp 定員制・入替制	大阪	梅田ガーデンシネマ 06-6440-5977	兵庫	アサヒシネマ 078-221-5588	愛知	シルバー劇場 052-451-0815	京都	京都朝日シネマ 075-255-6760
福岡	KBCシネマ 092-751-4268	福岡	シネプレックス10小倉 093-512-4801	北海道	シネスイッチ札幌 011-241-7793					